

環境マネジメント

基本的な考え方・方針

オリンパスグループ環境方針

オリンパスは、環境問題に対する基本的な考え方を明示し、具体的な活動につなげるために、「オリンパスグループ環境憲章」を1992年8月に制定しました。そして2015年5月には、本業を通じた社会課題の解決を強化していくことを目的に、「環境と経済の両立」に関わる内容を追加し、「オリンパスグループ環境方針」として改訂するとともに、環境月間を実施したeラーニングでその周知を図りました。

オリンパスでは、製品ライフサイクル全体における環境負荷低減を重要課題と位置づけており、製品、事業場、物流の改善活動に積極的に取り組んでいます。

オリンパスグループ環境方針

オリンパスグループは、すべての企業活動の基本理念である「Social IN」に基づき、人々の安全・健康とそれを支える自然のいとなみを尊重し、製品・サービス、あらゆる事業活動において環境との調和と、経済を両立した取り組みを通じて、持続的発展が可能な社会と健全な環境の実現に貢献します。

1. 全員参加

従業員一人ひとりが環境活動に対する理解を深め、地域特性を考慮した環境活動に全員参加で取り組みます。

2. 環境経営の推進

グローバルでの体制と仕組みを維持し、環境活動を継続的に改善します。

3. 法規制・社会規範の遵守

環境に関する法令、ステークホルダーとの合意事項や自主基準を確実に遵守します。

4. 環境負荷の低減

汚染の予防、持続的な資源の利用、気候変動の緩和と適応、生物多様性の保護といった環境課題の解決に向けて、製品・サービス、事業活動を通じて環境負荷を削減します。

5. 環境と調和した技術の開発

環境保全に資する技術を開発し、その成果をものづくりのプロセスや製品・サービスに活かしていきます。

6. 環境コミュニケーションの重視

環境活動の社内外への情報発信を積極的に進め、ステークホルダーとの相互理解に努めます。

推進体制

環境経営の推進体制

オリンパスグループでは、事業部門やグループ会社ごとに環境推進部門を設け、全社環境管理部門がグループ全体の環境経営を推進しています。環境活動の進捗は、取締役会および経営執行会議でレビューし、環境目標の達成に取り組んでいます。

また、国内外の主要な生産拠点および物流・販売子会社ではISO14001の認証を取得し、監査などを通じて環境マネジメントシステムを継続的に改善しています。

こうした取り組みの一環として、グローバルで環境関連データおよび文書を管理する情報基盤を整備し、2014年度から運用しています。

環境推進体制



※対象範囲は国内外連結対象会社

ISO14001認証取得事業場一覧

事業場	認証取得年月	事業場	認証取得年月
長野事業場(辰野) ^{※1}	1998年2月	オリンパスロジテックス(株)	2003年11月
日の出工場	1998年7月	オリンパスメディカルサイエンス販売(株)	2004年10月
会津オリンパス(株)	1998年10月	Olympus (GuangZhou) Industrial Co., Ltd.	2004年10月
白河オリンパス(株)	1998年10月	Olympus America Inc., National Service Center	2005年12月
青森オリンパス(株)	1998年11月	Olympus Scientific Solutions Americas Inc.	2010年7月
Olympus (Shenzhen) Industrial Ltd.	1999年9月	Olympus Scientific Solutions Technologies Inc.	2010年7月
技術開発センター(八王子)	2000年3月	Olympus NDT Canada Inc.	2010年7月
Olympus Winter & Ibe GmbH	2001年5月	Olympus Vietnam Co.,Ltd.	2013年1月
KeyMed (Medical & Industrial Equipment)Ltd.	2002年3月	長野事業場(伊那) ^{※2}	2014年5月
Olympus Technologies Singapore Pte Ltd	2003年10月		

※1 旧辰野事業場は2013年4月より長野事業場として認証を取得しています。

※2 旧伊那事業場は1997年に認証を取得。辰野事業場への統合、修理機能への変更を受け、2014年に再認証を取得しました。

制度・仕組み

環境リスクマネジメント

製品に含有される化学物質や、生産拠点の排水、土壌・地下水汚染に関する法規制違反は、操業停止や現状回復費用の発生、企業評価の低下など、オリンパスの経営に影響を与える重要な環境リスクです。そのため、法規制対応のための規程類の整備・改訂、環境推進者への教育、現地運用のモニタリング・改善を実施し、環境リスクの低減に取り組んでいます。

また、省エネやCO₂削減規制情報の把握、サプライヤーの多様化による突発的な洪水への対応など、気候変動リスクへの対策も進めています。

■ 製品の化学物質管理

オリンパスが設計・開発する製品は、各国の化学物質規制を踏まえて維持している「製品における環境関連物質管理規程」に従って、製品に環境関連物質が含まれていないことを確認しています。また、法規制が改正された場合は、追加調査を実施しています。

WEB オリンパスグループ製品における化学物質管理規定 <http://www.olympus.co.jp/jp/csr/involvement/management/chemical/>

■ 排水の管理

排水量を削減するため、水の使用量削減や循環利用に取り組んでいます。また、各事業場において、排水設備の管理者を設置するとともに、各地域の法規制よりも厳しい自主基準を設け、定期的に水質を測定することで、水質の維持を徹底しています。

■ 土壌・地下水汚染の防止

事業場の再開発などに際して、自主的に土壌・地下水を調査しています。また、行政への報告や協議に基づいた対策も行っています。

環境法規制の遵守状況(2015年度)

分類	件数	内容・原因／対策
法令違反	1	内容：八王子事業場にて下水道排水中の油系物質が基準値を超過 原因：人員増により油分除去設備の能力が不足 対策：当該事業所の油分除去設備を増強するとともに、公害防止規程に油分除去設備の維持管理に関する内容を追加し、他の事業所においても設備能力の再点検を実施
訴訟	0	—
罰金・科料	0	—

土壌・地下水の調査

調査対象	調査結果・対策
オリンパス岡谷事業場	2014年度に一部土壌に指定基準値を超える物質が見つかり、法律に則した対策を実施(2016年8月頃完了予定)
オリンパス幡ヶ谷事業場	清浄土に入れ替え2014年度の地下水のモニタリングで基準値未満であることが確認できたことから、対策を完了
オリンパス白河事業場	2015年度に一部土壌に指定基準値を超える物質が見つかったため、法律に則して清浄土への入れ替えを実施(2015年度中に完了)

生物多様性保全

生物多様性の損失は、地球環境や私たちの暮らしに深刻な影響をもたらすと懸念されています。

オリンパスグループは、各事業場における水使用・排水の管理、緑地の維持管理をはじめ、事業場周辺での清掃活動や森林保全活動などを通じて、生物多様性の保全に取り組んでいます。

グリーン調達

オリンパスは、2001年に「オリンパスグループグリーン調達基準」を発行しました。グリーン調達基準は、Webサイトにも掲載し、全てのサプライヤーさまにオリンパスの環境活動に対する考え方を説明しています。

また、継続的に取引のある国内外の主要なサプライヤーさまを対象に毎年1回実施している企業調査において、ISO14001認証の取得状況や、CO₂削減、廃棄物削減、化学物質対策の状況などを確認し、サプライヤーさまとともに環境活動レベルの向上を図っています。

WEB オリンパスグループグリーン調達基準 <http://www.olympus.co.jp/jp/csr/involvement/management/procurement/index.jsp>

環境教育・意識啓発

オリンパスは、「オリンパスグループ環境方針」に基づき全員参加の環境活動を進めていくために、「グローバル環境フォトコンテスト」など環境月間の取り組みなどを通じて環境意識の啓発に取り組んでいます。

また、環境法規制対応やISO14001内部監査など、担当機能に応じた教育を国内外の各事業場で実施しています。

WEB グローバル環境フォトコンテスト <http://www.olympus.co.jp/jp/csr/involvement/management/education/2015.jsp>

主な環境教育の実施状況(国内・2015年度)

対象者	目的・内容	受講者数
全社員	環境方針の周知(eラーニング)	12,010名 環境月間(6月)に全社員を対象に実施
環境監査員	ISO14001に基づく監査研修 (ISO14001改正内容の理解、監査実習など)	80名
事業場環境推進者	事業場に対する環境法規制の改訂内容 および対応・運用方針の周知	20名
事業場の化学物質管理事務局/ 薬品管理者、薬品使用者	化学物質管理における業務上の注意点の理解	420名

2015年度 主な環境活動実績

重点テーマ		目標	施策	2015年度の実績・成果 (定量・定性)	次年度目標
環境経営の推進	環境ガバナンス体制の強化	グローバルでの環境ガバナンス体制の強化	●環境関連規程類および情報基盤の整備 ●改正ISO14001への対応	●グローバル環境管理規程の制定 ●環境情報管理基盤の運用定着 ●改正ISOと現状のGap分析の実施、監査員教育の実施(80名)	グローバル連携、環境マネジメントシステム改善などを通じたグローバル環境ガバナンス体制の継続強化
	環境法規制対応の徹底	環境法規制対応プロセスの継続的改善	●関連する規定類の改善 ●関係者への環境法規制教育の実施	●製品および事業場の関連規程の維持 ●事業場での化学物質管理教育の実施(日本国内、420名)	製品および事業場系の環境法規制対応プロセスの継続的改善
製品ライフサイクルにおける環境の取り組み	製品における取り組み	オリンパスエコプロダクツの創出(定量目標なし)	各製品特性に応じた環境配慮設計の実施	全事業分野での新規エコプロダクツ創出(新規31件、累計556件)	事業特性に応じた環境配慮製品の継続的創出
	事業場における取り組み	エネルギー原単位: 2020年度目標 7.73%以上改善(対2012年度)	●製造改善活動の継続実施 ●新規建物建築時の環境配慮対策	●エネルギー原単位:7%改善 ●東北3工場新築建物の環境配慮対策実施(会津、青森、白河)	製造改善、省エネ、自然エネルギー導入など地域特性に応じたエネルギー原単位改善活動の実施
	環境貢献活動	「水の循環ー森・川・海の保護ー」のテーマに沿った貢献活動の実施	●グローバル各拠点での貢献活動 ●未来に残したい海プロジェクト活動の実施	●グローバル各拠点での河川清掃や地域緑化活動などの実施 ●サンゴ植樹、ネイチャースクール(3回)の継続実施	社会貢献活動の継続